

聯合保育會に出席して

大阪市保育會會員 大塚喜一

第三十四回京阪神聯合保育會に出席して、其印象新なる間にいさゝか所感を述べて諸賢の御參考に資したいと思ふ。

先づ本會開催前より思つてゐた事であるが、本會に提出せらるゝ問題は豫め之に就て研究し調査して豫備智識を持つて出席し得らるゝ様、會の開催より餘程以前に通告せられたきものである。何しろ一年に一度の會合であり、従て問題が多數集り、一題に與へらるゝ時間が縮小せられる。

此短時間内にて充實せる研究効果を收むには充分なる準備を要する。それには本誌を利用して此誌上に於て次回の聯合會に提出の問題及之に就ての必要なる説明を知つて置きたいと思ふ。此方法

は當日單時間内に於て豊富なる資料を提供せられし研究發表には最も適當と思はれる。凡そ研究は不斷の事業である故、研究題談話題等の意見の交換發表は繼續的に常に本誌誌上に於てせられ、讀む者をして誌上の聯合保育會に出席するの感あらしむる迄本誌を賑はせられし事を希望するのである。

次に「幼兒教育上改良を要すべき點如何」への私見として、「自由遊戯時間の充分なる利用」を提言したい。大正十三年夏、倉橋教授御講述の「幼兒教育原論」に説かれたる如く、幼稚園の保育科目は何れも内容として自由遊戯の中に含まれて居るものである。幼兒の組別の問題に就ての御意見の中に、「自由遊戯の自發的集團より自然に通常の一齊保育に導き入るゝ」旨を述べられたのは、小生の最も聽きたく思ひ更に實際に就ての詳細を知りたく望んだ所である。

幼稚園の自由遊の時間、殊に朝の時間は其幼稚園の實力とも稱すべく、保育の實際に深き御經驗御體驗を有せらるゝ保姆諸賢は、幼兒の自由遊中に、相互又は保姆と幼兒との相互作用の中に、幼稚園の内容の本體、換言すれば、「これが幼稚園だ」とも云ふべき何物かが嚴然として現はれてゐるのを觀取せらるゝであらうと思ふ。此問題は保育の具象的實際に就て、思ふて行ひ行ひて又思ふといふ様に、

知行合一的又は知行綜合的に進まねばならぬから、それには永き時日を要する。若し幸に諸賢の御賛同を得るならば、之を次回の聯合會への提出題として、今から一年がかりて研究と實行とをして行きたいと思ふ。

次に「幼稚園と小學校との連絡」に就て、出題者の主旨には副ひ難いかも知れぬが側面觀的な私見を述べたいと思ふ。智育方面に於て兩者間の實際

上の連絡の困難なるは當日述べられたる如くてあるが、これは幼兒教育の權威を指示する本質的部分としての「善良なる性情の涵養」に着眼すれば、此方面の憂慮は餘程緩和さるゝであらうと思ふ。

性格陶冶に於ける吾人保育者が幼兒への薰育は、來るべき幼兒の將來の生活の基礎であり、これは小學校教育が不幸にして或缺陷短所を伴ふ事ある場合にも其弊の及び得ざる所である。寧ろ小學校教育の根底を固むると云ふ意味に於て連絡上注目すべきであらう。前に力説せる自由遊戯の不知不識の間に於て、暖かなる保姆の愛育を受けて或は次第に幼稚園の生活に馴れ、又は或る性格上の發育不良の點や缺陷が薰化せらるゝ幼兒は如何に幸であらうか。小生自らが其一例なるを思ふ時、幼時に愛撫を受けし先生に對して感謝の念を禁じ得ない次第である。

(昭和二、一一、二五)